

変えよう！ 杉並区政

杉並区議会議員 杉並わくわく会議代表

松尾 ゆり



6月議会
一般質問
から

児童館、科学館、 あんさんぶる荻窪の存続を

杉並区議会の第二回定例会が開催されました(5/28~6/16)。松尾ゆりは、「施設再編整備計画(児童館、科学館等)」と「あんさんぶる荻窪の財産交換」について一般質問を行いました。以下は要旨です。



①施設再編計画について

●児童館について

そもそも行革の一部にすぎない施設再編整備計画がなによりも優先され、事業を削減する根拠となっていることは問題です。特に児童館、科学館など、これまで全国的にも高く評価されてきた杉並区の自慢ともいえるすぐれた事業が犠牲になっています。

施設再編優先ではなく、児童館の事業そのものをどう展開すべきかの方向性を定めることが先決。区民および専門家を交えて検討していくべきです。(答弁)児童館再編は施設再編整備計画の中で示し、区議会を含めた議論を経て決定したので、新たに検討会を設ける考えはない。

●科学館について

今年度、科学館は実質的に機能停止の状態となりました。学校への「出前授業」と移動プラネタリウムなどに変更され、回数は大幅に削減され、質も低下しました。これまでの科学館の事業とは比較すらできないレベルに落ち込んでいます。

昨年度までは小中学校の全学年が1年に1回は必ず科学館での授業を体験できましたが、今年度は小1、小2がはずされ、授業内容も、これまでは学校側が多数のメニューの中から選べましたが、今年は決まった1つのプログラムしか実施できません。小学生が楽しみにしていた夏休みなどの科学教室も中止です。

学校の移動教室以外の講座も年間約200回行われていましたが、今年は数えるほどしかできません。

杉並の科学館の廃止は全国的にも注目されており、日本天文学会、日本地質学会など5つの学会が存続を求める要望書を出しています。これらの学会の皆さんにもご協力いただき、住民参画で今後の科学館のあり方を検討する必要があります。

(答弁)事業者に委託して調査研究報告書の提出を受けた後、新たな拠点づくりの検討・具体化を図る。

杉並区議会議員選挙結果

松尾ゆり 当選いたしました

4月26日に行われた杉並区議会議員選挙の結果、松尾ゆりは3,157票をいただいて48人中19位で当選することができました。

4年ぶりに区議会にもどりました。今後とも全力で活動していきます。

②あんさんぶる荻窪について

あんさんぶる荻窪と荻窪税務署との財産交換は、設置されて10年という新しい施設、しかも駅前の一等地をむざむざ手放す、大変スジの悪い話です。

●あんさんぶる荻窪の児童館

特に、あんさんぶる荻窪2階の荻窪北児童館は、地元町会や保護者の方々から「公園のない荻窪南口地域の子どものために」との強い要望を受けて設置された児童館です。

当初、町会の役員の方々は、荻窪北児童館はなくなるが、そのかわりに桃二小に立派な施設ができるという説明を受けていたとのこと。ところが、昨年12月、桃二小の改築検討懇談会で、「丸々移転することは物理的に無理」との説明がありました。この点を確認します。

(答弁)桃二小には学童クラブ、小学生の放課後居場所事業、保育園児向けの小規模な遊び場を確保、杉並保健所内にはゆうキッズを含む乳幼児親子の居場所を確保する。

(注:区は地域の方に、あの立派な荻窪北児童館をすべて移転するために桃二小を改築するかのような説明をしてきましたが、それは虚偽だったということが明らかです。)

●杉並の自治は神話か

国会では「安全保障法制」についての審議が始まっています。憲法すらも逸脱する法律を安倍政権は提案し、多数をたのんでごり押ししています。

杉並でも、目を疑うような光景が繰り返されています。説明会では、町会の方々の真剣な発言に対して、司会が発言を止めようとマイクで妨害し、発言が聞き取れないことが度々ありました。発言すらさせない説明会とは、いったい何でしょうか。

沖縄では先日、辺野古基地建設に反対する県民大会が開かれました。翁長知事は、「沖縄の自治は神話」という米軍統治時代のことを念頭に、「日本の独立は神話かと言われぬように」と述べました。

私は今、「杉並の自治は神話なのか」と問いかけたと思います。

国の大きな問題と比べれば、杉並の子どもの施設の問題は小さなことと思う方もあるかもしれませんが、けれど、私は決してそのようには考えません。

地域の施設の問題ひとつ、民主主義にもとづいて解決できずすれば、私たちは、どうやって国の大きな問題に抵抗できるのでしょうか。

いま、杉並区民の自治の力が問われています。

「あんさんぶる荻窪交換の見直しを」説明会で意見相次ぐ

5月22日に開催された(仮称)天沼3丁目複合施設の説明会では、施設建設の前提である『あんさんぶる荻窪』と荻窪税務署等の交換について見直しを求める意見が相次ぎました。

地元説明会が開かれぬまま

「あんさんぶる荻窪」がある荻窪南口では、町会などの要望にもかかわらず、これまで一度も説明会が開かれず、町会の会合で田中区长に直接「あんさんぶる荻窪の児童館が廃止されることには賛成できない。財産交換は考え直してほしい」と要望した町会長さんは「もう決まったことだから」と拒絶されたそうです。

「本当にかっかりした。子どもたちのためにならないと思って、一生懸命お話ししたつもりだ。田中区长には、もうちょっと考えていただけないだろうか」と、説明会でも発言されていました。

大人の都合で児童に被害

別の町会の役員さんは、桃二小で荻窪北児童館の機能をすべてまかなえるものではないと指摘されたうえで、「最も被害を受けるのは現在就学中の桃二小の児童」「大人の都合で急遽改築が浮上したために多方面に波紋が広がっている」そして「あんさんぶるの存続を求めます」と発言されました。

議会軽視の発言も

一方、役所側の聞き捨てならない発言もありました。

「区議会の議決がまだなのに、決まったことのように進めていくのはおかしいのでは」という質問に対して、施設再編・整備担当部長は「区長の執行権限として行っていること。議会で議決しないと何も動かないということではない」と答えました。まるで、決めるのは区長、区役所であって、区議会は追認機関にすぎないとすら受け取れる重大な発言です。



「アンの日記」にちなむバラが、生徒と地域の皆さんのお世話で大輪の花を見せてくれます。

高井戸中
アンのバラ一般公開

荻窪税務署のお隣に太宰治の旧居「碧雲荘」があることをご存じでしたか？ 私はわりと太宰ファンなのですが、地元にながら今まで全く知りませんでした。5月30日に、この建物を保存する会が主催する「太宰サミット」が行われました。弘前、船橋、三鷹と太宰が住んだ街からそれぞれパネラーとして発言、太宰の親戚の方もサプライズで青森から来られました。

この「碧雲荘」は太宰が昭和11年から12年にかけての7か月ほど住んだ場所だそうです。「HUMAN LOST」を執筆したほか、「富嶽百景」にはこのアパートの情景が出てくるというファンにはこたえられない場所。太宰が住んだことのある建物は故郷の「斜陽館」以外にはもうこしが残っていないそうです。

杉並区はすでにこの土地を取得していますが、更地にして自転車置き場にす計画。(＞_＜)署名運動も始まっています。ご協力下さい。



「碧雲荘」を残したい

保育園が足りない…ばかりか、危ない!?

先日、ある民間保育園の保育士さんのお話をうかがう機会がありました。認可保育園（民間委託）、区立保育室（委託型）、認可外保育園など、民間企業（株式会社）運営による保育園の厳しさは予想以上で、子どもたちの日々の生活が本当に心配になりました。

以下、お話の中から。

★保育士の経験不足

- ・若い保育士さんばかり。お給料が安く続けられない。産休・育休がとれないので出産を機にやめてしまう。もともと子どもが好き人が多いので、自分の子どもに集中したい気持ちもある。
- ・子育て経験のある保育士がいないので、お母さんの悩みにこたえられない。ベテランから学ぶ機会もない。公立と比べ研修の機会もない。
- ・経験が少なく、保育士の人数も少ないので、子どもと十分向き合うことができない。子どもが言うことをきかないと、扱いに困って、倉庫に閉じこめるなどの虐待を行っていたケースも！
- ・区立保育園が民間委託になったら、いっしょに保育士が入りかわり、認可なのに、経験のない人、子どもにガミガミ怒る人などになってしまった。

★ケチケチ保育園

- ・民間の認可外保育園の多くは給食設備がなく仕出し。給食費をケチっているので子ども向きでない食品（イカリングフライとか）が入っていた園も。
- ・布団がない保育園もある。

★環境が悪い

- ・園庭がないので外遊びがなかなかできない。近所に公園が少ないので、どの公園も毎日3、4園から来ていて「公園争奪戦」になる。
- ・人手がないので、公園に行くのは月2〜3回。7〜8月は熱中症を避けるため外出なし。
- ・マンションの中の保育園で、窓もない。園庭もない。

★解決するには

- ・まずは賃金を引き上げて、人材を確保すること。
- ・十分な人員体制をしること。



〈資料〉保育園の事故が増えている

- ◎2014年 全国保育園の事故報告数(厚労省集計) 事故177件 うち死亡17件 (認可5件 認可外12件)
- 1962〜2000年の約40年間、認可保育所での死亡事故は15件にすぎなかった。
- 2001〜2009年には22件と急増、いまでは、毎年数件死亡事故が起きている。認可外の保育施設が増える中で事故も増えている。

阿佐ヶ谷「ゴールド街」

阿佐ヶ谷「ゴールド街商店街」が6月末で閉鎖されました。1967年から48年にわたり、阿佐ヶ谷の顔だった商店街。私が子どものころはキラキラ輝いていました。学校の上履きやカバンを買い、レコード屋さんやアクセサリー屋さんにも通いました。結婚してからは家族で食事にも行きました。いつの頃からか空き店舗が増えたなあと感じていたとき、「JRに立ち退きを迫られている」と聞きました。それから数年、ついにこの日が来てしまいました。JRは民間の会社とはいえ、もとは国鉄。私たち国民の税金によって線路を敷き、列車を運行してきたはずの会社が、長年真面目に商売をしてきた人たちと共存しようとせず、自社が儲けることばかり。裁判も傍聴してきましたが、全く納得いきません。近頃、個人商店の閉店があいつぐ阿佐ヶ谷です。有名店のお煎餅屋さん、会社の帰りに毎日寄っていた八百屋さんも閉店。このままだとスーパーでしか買い物ができなくなってしまいます。「阿佐ヶ谷の駅前アメリカの会社ばかりでしょ！」とはあるお店の奥さんの言葉。本当だ！4月の選挙中も、たくさんのお店にお話を聞きにいきましたが、個人商店はどこも大変でした。昨年の消費税引き上げ、アベノミクスによる物価の上昇。消費者はサイフのひもを引き締めるしかなく、お店の売り上げは右肩下がりです。ともあれ、ゴールド街から退去されたお店の皆さん、お疲れ様でした。そして、これからもどこかで元気にお店を続けられるよう心から祈っています。



「阿佐ヶ谷ゴールド街」のシャッターに貼られた閉店のごあいさつ

「もはや辺野古は沖縄だけの問題ではない」

35,000人

5月17日、辺野古新基地建設に反対する沖縄県民集会が行われ、35,000人が集まりました。

昨年4回の選挙(名護市長選市議選、県知事選、総選挙)でも明確に示された新基地建設反対の意思を無視して、安倍政権は工事を進めています。これに対して県民大会では、「道義と正義は私たちにあり、辺野古に基地をつくることは不可能」と宣言しました。



「オール沖縄」で辺野古新基地建設に反対する

6月23日の慰霊の日の式典でも、翁長雄志知事は「強制接収された普天間飛行場の固定化は許されず、辺野古に移設する。嫌なら沖縄が代替案を出しなさい」との考えは到底、県民には受け入れられない」と宣言し、喝采を浴びました。

飛行場の固定化は許されず、辺野古に移設する。嫌なら沖縄が代替案を出しなさい」との考えは到底、県民には受け入れられない」と宣言し、喝采を浴びました。

安倍政権は安保関連法案の成立に向け、強引な国会運営を強めています。憲法調査会では与党側参考人も含め、3人の憲法学者が「憲法違反」と断じ、反対の世論が高まっています。私も含む、反議会の超党派議員有志17名も連名で声明を出し、そろって駅前で街行く皆さんに法案への反対を訴えています。

安保法制と日米ガイドライン

「もはや「辺野古」は沖縄だけの問題ではない。わたしたちは今、この国の民主主義の在り方を問うている。」

「道義と正義はわたしたちにあり、辺野古に基地をつくることは不可能である。子どもたちや孫たち、これから生まれてくる次の世代のためにも、私たち沖縄県民は決して屈せず、新基地建設を断念させるまでたたかうことをここに宣言する」

問題は、もちろん沖縄だけの問題でないことはいまでもありません。日本が真に独立国になるのかが問われています。

BOOK

日本はなぜ、「基地」と「原発」をやめられないのか

(矢部宏治著 集英社インターナショナル)

安保法制も基地問題も、そして原発も、誰もが「おかしい」と思うのに、なぜやめられないのか。そして誰ひとり責任をとろうとしないのか？

その謎を「基地」と「原発」を止められないのか

を前提とした「ガイドライン」の見直しを行い、安倍首相の米議会演説で「この法案を夏までに成立させる」と宣言しました。

日米ガイドラインではすでに、軍事協力の範囲を日本周辺に限らないこと、日本が攻撃されなくても武力行使を可能とすることなどが合意され、しかも、平時からアメリカと共同で軍事計画を定めるとされています。

仮に今回、安保法案が成立しなかったとしても、この日米ガイドラインによって形を変えてまた出てきます。日米関係を従属から対等平等な関係に変える以外に、解決の道はないのではないのでしょうか。